

公務員試験において多くの自治体が入力している論文試験について、出題頻度が高いと考えられる題材をテーマとして扱い、必須項目を数多くストックしていくという方法は総長のご指導にございましたように非常に有効なものであると感じました。

最初に扱った「貧困と階級社会」は、授業の冒頭に総長先生が指摘されたように大変重要ですが簡単ではない題材でした。そのため、宮園先生は設問毎の文字数を最初に示し、また前提となる知識が必要で、それをしっかり暗記することなど、答案作成するための方針をまず学生に示しました。そのうえで知識として必要なことを詳細に解説することで、学生の理解を深めていきました。また、項目を区切って解説を行った部分ごとに内容を暗記する時間を設け、知識の定着を図る授業運営を的確に実行されていました。解説に補足が必要と思われる箇所については総長先生から適確なご指導が行われ、学生はより印象深く内容の理解を図ることができたと思われます。その結果、学生は記述すべきことを的確に押さえ、総長先生から「合格答案」であるとのお言葉を頂くことが出来ました。

2問目の「災害対策」は、ひとつの設問で1000～1500字とボリュームがありましたが、一度に答案作成させるのではなく、設問に示された3つの視点毎に解説し答案を作成する方法を採り、問題を分割して最終的にまとまった形の答案を作成していくかたちで授業を進行していました。設問の形式により異なる対応方法を伝える必要性を感じました。

テーマへの理解を深めたうえで答案例を読み、重要ポイントを把握し実際に答案作成を行うという流れは、難解な題材であればあるほど有効なものです。そのことは、作成した論文を学生が発表した際に強く実感しました。こうした対策を継続し、必須項目を数多くストックしていくことで公務員試験合格に結びつくものと確信いたしました。